

2008年5月12日、中国・四川省をM8級の地震が襲いました。死者・行方不明者8万人以上、数百万人が避難生活を続ける大災害に対し、私たちは「忘れない、思いをはせる、気持ちを届ける」を合言葉に日本からの支援策を探ってきました。そこで生まれたのが「パンダタオル」です。見た目はかわいくとも、被災地と私たちをつなぐメッセンジャー。当通信は、パンダタオルをめぐる活動や被災地の状況をお伝えしながら、復興支援への協力を呼び掛けます。

～被災地は今～

CODE 吉椿さんの現地レポート・その2



北川県香泉郷光明村。人口約700人という小さな農村です。典型的な中国の農村で、米や野菜は自給自足でまかっていますが、村内に産業がなく、多くの人々は現金収入を求めて遠く外の省へと出稼ぎに行かざるを得ません。しかし、2008年末の世界的な金融危機の影響は四川の被災地の農村にも影響を及ぼし、思うように出稼ぎに行けなくなりました。

CODEは、この光明村で昨年5月の地震発生直後からガレキの片づけを行い、住民との関係を少しずつ築いてきました。4か月後の昨年9月から、この村でも住宅再建が始まりました。政府は昨年未までに被災者をすべて恒久住宅に入居させる方針でした。そのため多くの住民がゆっくり考える間もなく、焦って従来通りの耐震性の不十分なレンガ住宅を再建し始めたのです。

一方で伝統木造住宅の再建を選択した人々もわずかながらいます。それは地震後も約50年の伝統木造住宅が倒壊を免れ、しっかりと残っている姿を目の当たりにしたからです。CODEも木造再建について様々な情報提供をし、中国の建築家にも協力を依頼しました。それによって数十年ぶりに村内に伝統木造住宅が再建されることになったのです。

重機などのない農村では、木造住宅はすべて人の手によって建てられます。あらかじめ大工によって加工された柱や梁を立ち上げ、組んでいきます。男性は柱に登って木槌で叩きこみ、女性は下でロープを引っ張ります。子供たちは、厄除けの爆竹の準備や願い事の書かれた赤紙を柱に張り付けます。高齢者は周りで楔（木の釘）を削ったり、儀式を司ります。それを村人総出で見守ります。そして爆竹の鳴り響く中、家の中心である「梁」が上げられていきます。



その後、施主宅で大宴会が開かれるのです。

木造住宅を再建するという事は、一軒の家を建てるという事にとどまらず、村人が皆で

力を合わせ、震災によって傷を負ったコミュニティーの力、そして自らの伝統文化を再確認する絶好の機会になりました。こんなささやかな共同作業こそがこれからの長い「復興」への道への一歩となっていくのでしょうか。

(文・写真=CODE 海外災害援助市民センタースタッフ・吉椿雅道)

パンダタオルが心をつなぐ！

😊パンダタオルの輪😊

☆思いよ、届け☆

日付	内容	場所／主催
4月27日	パンダタオル手づくり教室	日本航空中部空港支店 ボランティアJ ／中部国際空港 セントレア
27日	中国四川大地震パンダタオルプロジェクト第3回現地報告会	名古屋大学防災対策室4階 地域防災 交流ホール／RSY
4月6日 5月9日	RSYボランティアデー／パンダタオル手づくり教室	RSY事務所／RSY



ひと針ひと針丁寧に頑張ってくださいました



かわいいパンダと共にステキな笑顔！

4月27日セントレアで、JALスタッフ約30名の参加のもと、RSY事務局長浦野から最初に中国四川省の現状や、パンダタオルプロジェクトについての経緯を説明し、その後パンダタオルづくりを行いました。JALスタッフの皆さんが四川の被災者の方に想いを馳せ、その気持ちをしっかりとパンダタオルにも込めて下さったことに心から感謝致します。



第3回パンダタオルプロジェクト現地報告会

4月27日、吉椿雅道さん(CODE海外災害援助市民センタースタッフ)、瀧美公秀さん(日本災害救援ボランティアネットワークNVNAD)、椿佳代さん(RSYパンダプロジェクトボランティアスタッフ)、箕輪幸徳さん(V-MAXディレクター)をお迎えし、現在の中国四川省の現状、パンダタオルプロジェクトの報告などを行いました。

現地報告会 参加者からの感想

メディアでの四川大地震の情報が少なくなる中、今の現状を知ることができました。細くても息の長い復興支援が本当に大切であると感じました。(詳しい報告は、RSYHPでご覧頂けます。)

【まめまめ四川】⑤昔は辛くなかった四川料理

2000年の歴史を持ち、激辛で知られる四川料理。しかし、昔は現在のように辛くはなかったというのです。また現在の四川料理と全く別物だったそうです。現在の四川料理が生まれたのは、清朝の乾隆帝時代(1735年-1795年)。この頃、主に湖北省や湖南省、広東省など中国南部から四川省へ多くの人が移住するようになりました。そうした民族移動のさなか、福建省から四川省へ行こうとしていたある男性が、湿気から荷物の豆に虫がわからないようにと干して唐辛子を入れたことがきっかけで生まれたというのが、有名な唐辛子味噌の豆瓣醬(トウバンジャン)だということです。これを機に、唐辛子をふんだんに使った現在の「激辛」四川料理が生まれたのだということです。(柚原)

事務局より

●作り手さん大募集!! RSYボランティアDAYにて「パンダ作り教室」を開催!

6月6日(土) 13:30~15:30

6月17日(水) 10:30~12:30

※参加自由。パンダキット1セット100円で販売します。

場所: NPO 法人レスキューストックヤード事務所

(地下鉄東山線「本山駅」下車2番出口から徒歩2分)

●「パンダ教室」をイベントによんでください!

四川大地震写真パネルの貸し出しやパンダづくり講師を派遣します。

(パネル貸出無料。講師交通費はご負担下さい)

●パンダタオルプロジェクト募金にご協力下さい。

パンダタオルを作成・送付するためには必要経費として材料費や郵送料等が必要です。活動資金のご協力をお願いします。

【お振込み先】郵便振替:00800-3-126026

加入者: 特定非営利活動法人レスキューストックヤード

※通信欄に「中国四川大震災支援」と明記してください

